1998年3月13日第三種郵便物認可
2011年12月25日発行（毎月25日発行）第17巻第1号［通巻182号］

FB

月刊フューネラルビジネス

Since 1996

no.182 January 2012

1

「料理強化」戦略による企業価値向上

ビジュアルレポート
・あいばるホール 小名浜会館

News & Information
・東日本大震災消防殉職者等全国慰霊祭

www.funeral-biz.com

話題&話題

健康問題から葬儀まで扱う 終活カウンセラー 協会と認定制度がスタート

高齢者人口の増加に伴って社会構造の変化が進む昨今、高齢者の差し迫った不安は、生活の安定や医療・介護への不安、家族との関係や自身の死後についてなど多岐にわたり、それらのなかにはすでに社会問題になっているものも多い。
そうした不安を解消し、高齢者が安心して暮らし、人生の終焉を考え、自分らしく生きるためのサポートするのが終活カウンセラーで、これを統括する協会がこのほど発足した。

多様な不安や悩みを整理し 高齢者と専門家の橋渡し役に

終活カウンセラー協会が一般社団法人として登記されたのは2011年7月。終活カウンセラーを「終活における、相続・遺言・葬儀・保険・介護などの問題に対して、相談者の話を親身になって聞き、的確な判断により専門家につなげることができる人材」と位置づけ、そうした人材の養成を目的としている。

設立の中心となった西森義人氏（広告代理店・エムズコーポレーション社長）、武藤頼胡（よりこ）氏（企業コンサルティング・オフィスリンテアライン代表）、山本博士氏（広告代理店・フューワークス社長）の3理事のほかに、弁護士や税理士といった各分野の専門家3人が監修として参画。そのなかの1人、高齢者の遺産・相続に関する案件を数多く取り扱ってきた法律事務所アルシエンの弁護士・武内優宏（ゆうこう）氏は、次のように語る。

「高齢者が抱える不安や悩みは、健康や家族関係、葬儀や相続など、さまざまな要素が混ざり合っている。本人も漠然としか把握できず、そうした悩みを聞いてくれる人が現われると、その人に全部を吐き出してしまう場面をよく見かける。それらの悩み相談を受け、『この悩みは税理士に、この問題は社会保険労務士に』と交通整理をしてあげる役割は、今後ますます必要になってくるだろう」。

同じく監修として参画している、税理士でファイナンシャルプランナーの内田麻由子氏も、「相続や税金の問題で相談に来る高齢者の多くは、それ以外にもさまざまな不安や悩みを抱えている。われわれ専門家がそうした悩みを解決するうえで、高齢者と専門家を“橋渡し”する役割を終活カウンセラーに担ってもらいたい」と語る。

また終活カウンセラーは、高齢者本人だけでなく、その家族もサポートする立場になる。コンサルティング会社エムグロウ社長で、介護業界にも明るいことから監修として参画した水間一樹氏は、「“高齢者は家族が介護するもの”と考える人が多いが、家族は必ず

初級講座には、一般からの参加も含め、70人が受講した

図表　第１回終活カウンセラー初級講座　タイムテーブル

時間	内容	担当
10:00～10:10	開会のご挨拶	事務局：西森義人
10:10～10:20	第１部　僧侶からみた終活	真宗大谷派：中下大樹
10:20～11:00	第２部　終活について・生命保険	事務局：佐藤頼胡
11:00～11:05	トイレ休憩	
11:05～12:00	第３部　介護保険・年金　社会保険労務士からみた終活	社会保険労務士：島田弘樹
12:00～12:50	5分間、周囲の方との挨拶 昼食（お弁当）	
12:50～14:25	第４部　相続・遺言　弁護士・税理士からみた終活	弁護士：竹内優宏 税理士：内田麻由子
14:25～14:35	休憩	
14:35～15:35	第５部　葬儀・供養、体験談	真宗大谷派：中下大樹
15:35～16:05	テスト	
16:05～16:15	アンケート	
16:15～16:25	各種案内、配付物説明	事務局：佐藤頼胡
16:25～16:30	閉式のご挨拶	事務局：山本博士

本誌で連載をもつ中下大樹氏の講義では、ホスピスや東日本大震災で亡くなった人、残された人の言葉が紹介された

しも高齢者が抱える諸問題の専門家ではない。家族にとって“身近な専門家”として終活カウンセラーが担う役割は大きい」と言う。

本誌連載執筆者で真宗大谷派僧侶の中下大樹氏は、全体監修として同協会の設立時から関わってきた。ホスピス病棟に勤務し、多くの患者を看取った経験から、「亡くなった人と残された人が抱えるさまざまな問題を、終活カウンセラーが中心となって情報共有しながら、専門家が連携して解決できる体制を築きたい」と抱負を語る。

認定制度を設けて人材養成を目指す

高齢者やその家族と専門家の橋渡し役となる終活カウンセラーに求められるのは、「浅くて広い知識」だ。専門家ほどの深い知識はなくとも、高齢者が抱える問題を理解し、どの分野の専門家が必要か判断する能力が必要となる。

同協会では、終活カウンセラーを養成するための、セミナーや勉強会、さまざまなイベントの開催を企画。その第１弾として、2011年10月23日に「第１回終活カウンセラー初級講座」を開講した。これは、先述の監修者らが講師となって、終活カウンセラーに必要なさまざまな分野の基礎知識を講義するもの。終了後に、終活カウンセラー初級認定試験を実施し、合格すれば「終活カウンセラー初級」と認定される。

受講料は7,350円で、試験に合格して認定を受けると、会員登録料として年間3,780円が必要だ。第１回目は、東京都港区にある東京都立産業貿易センター浜松町館内の会議室を借り切って、10時～16時30分まで、６時間以上にわたって行なわれた（**図表**）。

「初回で様子見という意味合いもあり」（武藤理事）、開講告知には各理事や監修者の口コミを中心に、Twitter（ツイッター）やFacebook（フェイスブック）などが活用され、最終的には70人の受講・受験者が集まった。そのなかには、一般企業や葬祭業界の関係者に混じって、偶然告知を目にして興味をもった一般参加者も多くいた。

一般企業・団体、葬祭業界にも浸透図る

講義の内容は、専門用語の解説など素人でもわかりやすく、“豆知識”や“お役立ち情報”なども盛り込んで受講者の関心を引いた。認定試験は比較的平易なもので、70人の参加者全員が合格。第１回目で、かつ初級ということもあり、ふるいにかけるのではなく多くの人に参画してもらうことを優先したという。

今後は、すでに12年３月10日に、終活カウンセラー初級講座の２回目の開講が決定しているほか、より専門性の高い上級資格も計画しているという。

「初級は、身のまわりに高齢者がいたり自身が高齢者だったりする一般の方が活用できる内容となっているが、上級は事業の一環として終活カウンセラーの導入を考えている一般企業や団体も対象としていく方針。葬儀業界の方々にも、ぜひ参加してほしい」と武藤理事。そのほか、気軽に参加できる勉強会なども随時開催し、カウンセラー養成とともに終活の認知に努めている。いずれは、学生などにも参加してもらい、社会全体に終活という考え方を定着させていく計画だ。

詳しくは終活カウンセラー協会（http://www.shukatsu-csl.jp/）まで。